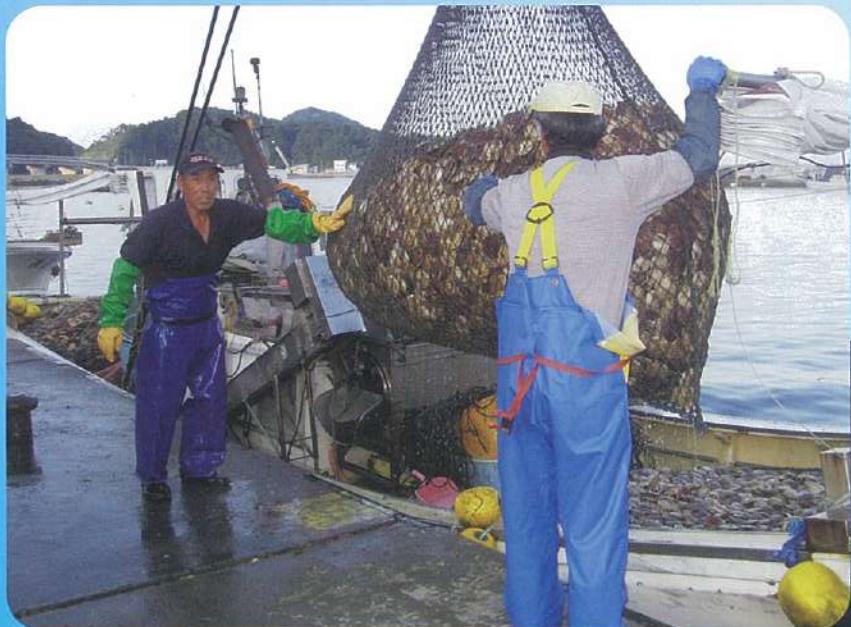


あおもり漁連

植村正治氏 書

甦れ!! 協同組合運動

No.
155



ほたて復興

深浦沖の漁火 写真提供 深浦町 藤田様

CONTENTS

平成24年度 青森県漁連通常総会開催	1	漁船海難防止青森県大会	9
青森県漁業経営安定対策本部通常総会開催	3	漁業経営セーフティネット構築事業について	11
平成24年度青森県漁連臨時総会開催	4	がんばろう東北キャラバン	12
マダラ放射性物質に係る出荷自粛規制について	5	平成24年度漁協運動功労者・県漁連新人職員紹介	13
系統団体総会開催・県内漁協新組合長就任報告	6	水産に関する主な動き（1月～8月）	14
ほたて復興状況	7		

2012 9

資源・金融・共済の三本柱推進



総会風景

平成24年度（第63事業年度） 青森県漁連通常総会開催

去る、6月20日、青森県水産ビル7階大会議室において、青森県漁連平成24年度（第63事業年度）通常総会が開催され、平成23年度決算、平成24年度事業計画など8議案を審議し、原案通り承認決定した。

冒頭主催者を代表し、赤石会長が「東日本大震災から1年3ヶ月が経過致しました。この震災により本県においても、階上から三沢地区を中心漁業関係者・団体が甚大な被害を受けました。本会と致しましては、流出・大破した漁船の復旧や倒壊・破損した防波堤・岸壁・施設などの復旧に向け、国・県に対し要請を行つて参りました。今後も浜の復興と再生のため全力を挙げ取り組んで参ります。

また、福島第一原発事故の終息が未だ見えない中、水産物等に対する安全性について、風評被害拡大防止対策や風評被害が発生した場合の補償等、今後とも関係機関と連携し取り組んでいく所存でございます。

共済会員による「漁業協同組合年」における「漁業協同組合年」の積極的運営

など重要な問題が加わり、さらに厳しい状況下にあります。特に資源が減少傾向にある中で、水産基本法の基本理念であります「水産物の安定供給の確保及び水産業の健全な発展」を実現・継続させるためには、これまで以上に資源管理型漁業の推進を図らなければなりません。本会と致しましては、昨年から実践している「水産資源管理体制の確立」「漁業金融の円滑化」「漁業共済の加入促進」の三本柱による循環型漁業の構築の運動を一層強力に推進し、漁業経営基盤の強化を図る所存でございます。

本年は、国連が定めた「国際協同組合年」であります。全国には約8,000万人以上の組合員がいると聞いております。第一次産業に携わる者として、地域産業そして日本の食料産業を担う重責を踏まえ、時代の要請に対応できるJFグループの強化に取り組んで参りますので、ご協力をよろしくお願ひ致します。

さて、平成23年度の事業状況ですが、後程専務及び担当部課長の説明がありますが、当期剰余金においては、計画を上回ることが出来ました。

また、恒例により会員各位に対しまして

あおもり漁連

は、業務部門で奨励金及び施設助成金等で約3,600万円をお支払い致しております。このことは、各事業において効率的・合理的な運営を心がけ、鋭意努力して参りましたこともさることながら、会員皆様方のご支援・ご協力の賜と心より深く感謝申し上げる次第でございます。」と挨拶を述べた。

続いて、来賓を代表し、三村申吾青森県知事（宝多森夫水産局長代読）より祝辞があり、田高利美大畠町漁協組合長を議長に選出し議事に入った。

議事は、第1号議案の平成23年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、注記表及び剩余金処分案に関する件を始めとする8議案が上程され、いずれも原案通り承認決定された。

63年度青森県漁業協同組合連合会通常総会

甦れ!! 協同組合運動



宝多県水産局長 祝辞



会員組合長

〔平成24年度事業計画〕

◎ 基本方針

漁業を取り巻く情勢がさらに厳しさを増す中、昨年は、東日本大震災の大津波により太平洋沿岸部を中心とした漁港・漁船・施設等が壊滅的な被害を受けました。本会に於いても鮮魚介類の水揚げ減少や漁業用燃油の販売不振等に加え、一昨年の高水温によるホタテの減産、それに伴う本会加工事業の製造原価上昇等、極めて厳しい状況がありました。全国に目を向けてみると福島原発の事故による放射能や風評被害、また指定漁業一斉更新や水産特区等、わが国の漁業にとって非常に重要な問題が未だ残されたままとなっており、今後ともJFグループが総力を結集して取り組んで行かなければなりません。

本県の漁業につきましても、依然として漁獲及び魚価の低迷等で、漁業経営が極めて厳しい状況にあることを踏まえ、資源管理型漁業の確立と漁業者の所得安定のため、循環型漁業の構築に向け、「水産資源の確立」「漁業金融の円滑化」「漁業共済加入促進」の三本柱の実践を強力に推進するとともに、原油高騰に伴い、燃油や資材等の価格が上昇し、漁業経営を圧迫していることから、省エネ対策等の推進、生産コストの削減、漁業経営安定対策事業の普及推進等に努めるほか、漁業経営指導や漁政対策等にも積極的に取り組み、漁業者の経営安定、そして漁協経営基盤の強化に取り組んで参ります。

そのほか、関係機関と連携し、本県産魚介類の消費拡大やブランド化を目指した取り組みを展開し、产地価格の向上を図って参ります。

記

〔重点推進事項〕

1. 水産資源の管理・確立を図るための諸対策
2. 漁協の経営基盤の強化並びに漁業金融の推進
3. 漁家・漁協経営の安定・向上と漁業共済加入促進
4. 水産物の価格向上及び付加価値向上
5. 漁業用石油類及び資材類の安定供給
6. 各種漁業の生産基盤強化及び増養殖事業の推進
7. 水産物及び水産製品の消費拡大
8. 水産物の衛生管理
9. 漁業環境保全
10. その他漁業者及び漁協の経営に資する事項並びに漁業振興に資する事項

平成24年度 青森県漁業経営安定対策本部通常総会

6月20日、青森県水産ビルにおいて、平成24年度青森県漁業経営安定対策本部通常総会が開催され、平成23年度決算、平成24年度年度事業計画など2議案を審議し、原案通り承認決定した。

重点事項

1. 資源管理対策
2. 漁業経営安定対策
3. 漁業金融対策
4. 原子力安全対策
5. 東日本大震災対策
6. 漁協経営安定対策
7. 有害生物対策
8. その他諸問題対策

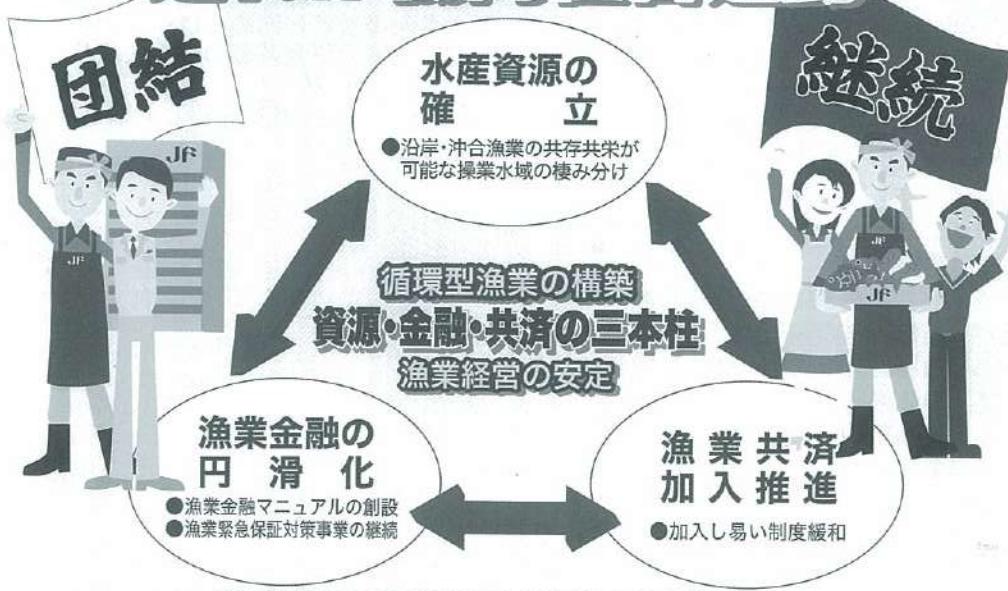


甦れ！！協同組合運動

平成24年度スローガン

- 資源・金融・共済の三本柱推進による循環型漁業の構築と漁業経営の安定化
- 浜のニーズに合った水産補助事業の活用による漁業振興と発展
- 共存共栄可能な操業体系と安全操業の確立
- 国際協同組合年にあたり「甦れ！！協同組合運動」の積極的展開

甦れ!! 協同組合運動



JF 青森漁連・青森県漁業経営安定対策本部

議案「役員補欠選任に関する件」

去る、8月3日、青森県水産ビル7階大会議室において、青森県漁連平成24年度臨時総会が開催された。

開催にあたり、赤石会長は「会員の皆様にはスルメイカの盛漁期というご多忙の中、ご出席を頂き誠にありがとうございました。県漁連の理事は9名であります、先般6月20日の通常総会終了後に員外理事であります西崎理事から口頭で理事の辞任の申し出がありました。その後正式に7月3日に辞任届が提出され受理致しました。そして当日の理事会で報告し、補充について協議致しましたが、本会役員選任規程第14条に該当しないことから任期まで理事8名体制で運営していくことで決定致しましたのでご報告申し上げます。西崎理事につきましては、今までご協力頂きありがとうございました。なお監事の欠員につきましては、本会役員選任規程第14条に該当することから本日臨時総会にて提案するものであり、会員の皆様のご審議の程をお願い申し上げまして挨拶に代えさせて頂きます」と挨拶を述べ、西崎理事の辞任と運営体制について報告した。



赤石会長 挨拶

議長に選出し議事に入った。

議事は、第1号議案「役員補欠選任に関する件」が上程され投票の結果、八戸みなと漁協の岡沼明見組合長が監事に選任された。

選任された岡沼監事は、「役職を全うするため精一杯頑張りますので、熊谷前監事同様、ご指導ご鞭撻の程をお願い申し上げます。」と挨拶を述べた。

青森県漁連役員新体制

役職名	氏名	代表理事長	副会長	専務理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	監事	監事	代表監事	理事	理事	理事	監事	監事	
赤石憲二	泊										岡沼明見	山口隆治	工藤伍郎	佐々木信昭	三國優	木浪昭	濱端廣文	三津谷廣明	平内町
											八戸みなど	後潟十三	十三	三廻	野牛昭	外ヶ浜大間	小出政明	員外	



岡沼新監事

本県のマダラ出荷自粛について

平成24年6月19日に、本県太平洋沿岸で漁獲されたマダラから国の新基準を超える放射性セシウムが検出され、翌20日に青森県から1回目の出荷自粛要請が出された。

7月25日、1回目の出荷自粛要請が解除されたが、8月9日盛岡市中央卸売市場で、八戸港で水揚げされたマダラ加工品から放射性セシウムが検出され、2回目の出荷自粛要請が出された。

これにより、8月27日には国から出荷制限の指示が出された。

2度に渡る出荷制限により、漁業者は収入を絶たれてしまい、今後更に長期化した場合、漁業継続の危機といった状況も予想される。

のことから、浜の混乱を避けるため協議会を設立し今後の対策を協議すると共に、東電に対しては補償の早期支払いを要請しているところである。

【マダラ自粛要請に伴う対応・対策】

H24. 6.19 青森県から1回目のマダラ出荷自粛要請
(太平洋海域)

- 6.23 規制海域における対応を協議
- 7.5 緊急組合長会議（海峡～太平洋地区）
- 7.10 現地協議会（泊地区）
- 7.12 漁連・経対本部役員緊急会議
- 7.13 現地協議会（八戸地区）
- 7.25 青森県水産物放射能対策協議会設立
- ” 1回目の出荷自粛要請解除



県知事への要請

8.9 補償請求に係る事務手続会議
「八戸市」

- ” 青森県から2回目のマダラの出荷自粛要請（太平洋海域）



- 8.10 第2回青森県水産物放射能対策協議会開催
- 8.20 青森県知事へ要請
- 8.27 国から出荷制限指示
- 8.28 第3回 青森県水産物放射能対策協議会開催

8.31 東京電力株へ損害賠償を請求（1回目）

9.7 第4回 青森県水産物放射能対策協議会

9.10 国並びに全漁連へ要請



国への要請



全漁連への要請

系統団体総会等開催報告

団体名	会議名	開催日	主な議案
青森県信用漁業協同組合連合会	通常総会	H24.6.22	23年度決算、24年度予算、役員補選
青森県漁業信用基金協会	通常総会	H24.6.21	23年度決算、24年度予算、役員補選
青森県漁船保険組合	通常総代会	H24.5.30	23年度決算、24年度予算
	臨時総代会	H24.7.3	役員改選
青森県JF共済推進本部	定時総会	H24.6.21	23年度活動報告、24年度活動報告
青森県漁業共済組合	臨時総会	H24.3.9	規定の一部変更
	通常総会	H24.6.22	23年度決算、24年度予算
(社)青森県漁港漁場協会	臨時総会	H24.3.23	役員選任
	通常総会	H24.5.31	23年度決算、24年度予算

県内漁協新組合長就任報告

漁協名	新組合長名	就任月日	前組合長名
蓬田村	坂本重彦	H24.3.29	田中孝光
野辺地町	吉田国彦	H24.3.30	五十嵐實
川内町	今進	H24.8.4	木下一男
蛇浦	中塚義光	H24.4.6	木下栄作
六ヶ所村海水	高橋義経	H24.6.27	木村常紀
三沢市	澤口政仁	H24.6.24	門上馨
八戸みなと	岡沼明見	H24.6.29	熊谷拓治
階上	荒谷正壽	H24.3.20	中田一二三

平成22年の高水温による ホタテガイ大量へい死からの復興状況について

平成22年夏の記録的な猛暑により、陸奥湾の水温は水深15m層で26.8℃の最高水温を記録し、25℃を上回った日が30日を超えるなど、観測史上最大の高水温により衰弱したホタテガイに潮流等のストレスが加わり、陸奥湾ホタテの大量へい死につながりました。

特に、水温の高い津軽暖流が流れ込んだことで、表層から底層まで全ての層が高水温となり、最も水温の影響を受けにくい地まき貝までもが被害に遭いました。

その後の調査では、21年産成貝及び22年産稚貝の約7割がへい死したものと判明しましたが、成貝、地まき貝のへい死は、親貝の不足という大きな問題となり、今後数年に亘る緊急的な親貝確保対策が求められました。

この問題に対し、県漁連及びむつ湾漁業振興会は、当初、成貝2,000トンの販売抑制を決定し、これに伴う損失を補てんするため、県、関係市町村からの支援と業界の拠出金を合わせ2億円のほたてがい母貝確保緊急対策事業を実施しましたが、その後、5,000トンの親貝の確保が可能との判断により、3,000トンの追加抑制分として国・県に支援を要請した結果、3億円のほたてがい再生産緊急対策事業を実施するに至りました。

この対策により、23年春の採苗に必要な親貝数は、最終的に6,000トンが確保され、同時に、(財)むつ小川原地域・産業振興財団の支援を受けながら、陸奥湾の公海に採苗区域緊急拡大事業を展開し、最大限の採苗器を投入したことと、地域間の稚貝融通の効果も加わり、陸奥湾全体では必要最低限の稚貝を確保することが出来ました。

このへい死被害により漁業者の生活は困



洋上作業

あおもり漁連

窮し、苦労して育てた成貝が再び高水温によりつい死するのではとの危惧から、成貝づくりを行う漁業者が激減しました。

このままでは陸奥湾ほたての自力再生が困難になるとの危機感から、県漁連、むつ湾漁業振興会、青森県ほたて流通振興協会が県に支援を要請し、業界の拠出金と合わせて1億円のほたてがい成貝づくり緊急対策基金を創設し、現在、成貝づくり推進のための事業を実施しているところであります。

24年春の採苗については、この事業と2年連続となる公海採苗区域緊急拡大事業及び23年度のほたてがい再生産緊急対策事業で実施した親貝移設の効果が現れ、必要十分な稚貝が確保される見込みとなっています。

また、23年産稚貝も順調に育ち、24年の半成貝として出荷され、8月には45,000トンの計画を達成致しました。

のことから、平成22年夏の高水温によるホタテガイの大量つい死からの復興は順調に進んでいるものと考えられます。

陸奥湾のほたて漁業再生にご協力頂いた、国、県、関係市町村、並びに(財)むつ小川原地域・産業振興財団や水産関係団体の皆様、また、稚貝の融通にご協力頂きました漁協、漁業者の皆様に厚く御礼申し上げます。

今後は、ほたてがい成貝づくり緊急対策事業の中で設置した陸奥湾ほたてがい成貝づくり推進協議会の取組により、安定的な成貝づくりを推進することにより、陸奥湾のほたて漁業を再建できるものと確信致しております。



出荷風景



第1回「漁船海難防止 青森県大会」開催

青森県漁船海難防止・水難救済会は去る8月31日、青森市青い海公園で「漁船海難防止 青森県大会」を開催した。

【大会趣旨】

本県沿岸における海難事故は依然として後を絶たず、尊い命と貴重な財産が失われており、救命胴衣を着用していれば助かる命も多くあります。

救難所員は一旦事故があれば、我が身の危険に臆することなく尊い人命を救う為、ボランティア精神に基づく救助員として活動しています。

そのために、救難所員として機敏な行動ができる訓練と、緊急出動体制の確立が必要となるわけであります。

この度、5箇所の救難所を新設し、現在、青森県内には18箇所の救難所を有しますが、救難所活動そのものが停滞しております。

今回の大会を期に、救難所活動の活性化を図ることにより、救難所員の意識の高揚と救難活動に係る技術の向上を目指し、海難事故防止への認識強化のため「漁船海難防止青森県大会」を開催する。

大会には青森県内から救難所員、漁協関係者約600名が参加し、人命救助訓練に取り組んだ。

主催者を代表し、赤石憲二会長（JF青森漁連会長）は「地道な海難防止啓発運動を展開しているが、海難事故は後をたたない状況にある。また、救難所活動が停滞していることから、大会を機に救難所活動の活性化を図り、海難事故防止意識を高めることと、大会は継続することが重要である。」と述べた。

続いて、来賓として三村申吾青森県知事（吉田水産振興課長代理代読）並びに青森海上保安部長（谷田青森海上保安部次長代読）より挨拶を頂いた。



赤石会長挨拶



参加救難所員

続いて、永年にわたり海難防止運動と水難救済活動に尽力された植村正治氏と、永年にわたり救命胴衣着用推進と海難事故防止等に積極的に参画・貢献された青森県漁船保険組合に感謝状が贈呈された。

本大会を機に新たに開設された三厩、外ヶ浜、青森市、横浜町、脇野沢村の5救難所に承認

あおもり漁連

書が授与された後、5救難所を代表し、横浜町救難所 二木所長が「私達救難所員は、事故の無い平和な海を祈りながら、万が一の時に備え、日々の訓練・救命器具の整備に努め、海のボランティア精神のもと、自らの危険を顧みず人命救助に尽くします。」と決意表明した。

水難救助訓練は、「青森市漁協所属の漁を終え帰港中の船舶と、漁に向かう船舶とが衝突し事故が発生した」という想定で行った。

青森市救難所は、漁協事務所内に対策本部を設置し、横内所長の合図で救難活動にかかった。

- ① 船舶火災消火訓練
炎上中の船舶に対する消火作業。
- ② 救命策発射器による人命救助訓練と火災船の曳航訓練
青森海上保安部による、救命策発射器（モヤイ銃）の発射。発射されたロープを使い接舷後、組合員の救助を行い漁港へ搬送を行った。又、火災船を漁港まで曳航した。
- ③ 漂流者の救助訓練と心肺蘇生による応急手当訓練
漂流者救助のため現場に急行、漂流者を発見、救助し、船内で救難所員が心肺蘇生を行なながら漁港へ搬送した。
漁港で待機していた救難所員、海上保安部が心肺蘇生の実演を行った。
- ④ ヘリコプターによる漂流者の救助及び搬送訓練
海上保安部函館航空基地所属の「くまたか」が、未だ発見されていない乗組員を捜索。漂流している乗組員を発見、「機動救難士」が救助を行い、応急手当を行いながら病院まで緊急搬送を行った。



決意表明

以上で、水難救助訓練が終了した。

引き続き、海難防止安全宣言を脇野沢村漁協青年部 中村有男氏と新深浦町漁協北金ヶ沢女性部副部長 伊藤満由美氏が行った。

最後に、佐藤博県漁船海難防止・水難救済会理事が、救難所活動の活性化と海難事故防止の意識を高める為の「漁船海難防止 青森県大会」の閉会宣言した。



消火訓練



ヘリからの救助訓練



漂流者救助訓練

漁業経営セーフティーネット構築事業（概要）

～平成25年度加入促進～ 当初制度の一部が改善されました

「漁業経営を脅かす燃油価格の高騰時に備え、その高騰分の軽減を図り、持続可能な漁業経営に寄与する。」

事業の仕組み

- (1) 漁業者と国が一対一の負担割合で資金を積立。

23年度までの積立単価は、燃油1,700円/KLの統一単価。



24年度からは上限6,500円/KL～下限1,000円/KLとした5段階から、個々の漁業者が選択。

積立単位：5段階から選択制

- | | | |
|------------|------------|------------|
| ① 6,500/KL | ② 5,000/KL | ③ 4,000/KL |
| ④ 3,000/KL | ⑤ 1,700/KL | ⑥ 1,000/KL |

直近の高騰に対処するため、
当初制度を改正。

※一括払い、又は均等割で分割払い

- (2) 原油価格が一定の基準を超えて上昇した際に、高騰分に対して補填金が交付される。

発動ラインとなる原油価格の基準を改正

23年度までは、直近2ヶ年の原油価格平均値に115%を乗じた値が発動ライン。



24年度は、移行期間として、第1四半期は平均値に115%乗じた値、その後、段階的に引き下げ、第4四半期において100%を乗じた7中5の平均値が発動ライン。

24年度発動ライン原油原価

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 第1四半期「7中5平均値×115%」 | 第2四半期「7中5平均値×110%」 |
| 第3四半期「7中5平均値×105%」 | 第4四半期「7中5平均値×100%」 |



25年度以降発動ライン原油原価

7中5平均値：直近7ヶ年内、高い月12ヶ月、低い月12ヶ月を除く5ヶ年の平均値×100%

「原油価格が高止まりした場合でも、的確な補てんがなされることが目的」とし、当初制度を改正。
これにより、算出期間の四半期毎の補てん基準単価の変動も僅差となります。

※尚、算出期間は、四半期（3ヶ月間）。

補填金の内訳は漁業者・国が各々1/2の割合で積立額から取り崩される。
(高騰分の1/2が実質補填額となります。)

- (3) 留意事項

期間途中で積立金が無くなった場合、その年度は補てんが打ち切りとなります。

対象年度内、燃料使用設定数量を超えた場合、その年度は補てんが打ち切りとなります。

加入申請は、一年に一回、現状は年度初めの4月。

【24年度現在本県加入状況】

海 域	参加漁協	参加漁業者
日本海	5	63
津軽海峡	3	10
太平洋	4	62
合 計	12	135

平成23年3月11日、突然襲つた東日本大震災。特に東北太平洋沿岸に押し寄せた津波による被害は甚大でした。被災者の多くは1年5ヶ月過ぎた今なお、仮設住宅や被災地から離れての暮らしを余儀なくされたり、私たちは東北人として1日も早い復興を願つております。

このような中、私達応援隊は7月29日被災地岩手県宮古市を訪問、「大杉神社祭典」(主催宮古漁業協同組合・大井誠治組合長)並びに「宮古夏祭り」(事務局宮古商工会議所)のイベントに参加、「青森ほたて貝焼き無料試食会」を左記の通り実施、宮古市民を激励してまいりました。

宮古市魚市場を会場に、大井誠治組合長・花坂康太郎宮古商工会議所会頭のご出席を得て開会セレモニーが行われ、植村正治ほたて流振会長が応援隊を代表して宮古市民に激励の挨拶、千名の宮古市民に貝焼き並びに加工品をふるまい、午後2時に終了となりました。

平成23年3月11日、突然襲つた東日本大震災。特に東北太平洋沿岸に押し寄せた津波による被害は甚大でした。被災者の多くは1年5ヶ月過ぎた今なお、仮設住宅や被災地から離れての暮らしを余儀なくされたり、私たちは東北人として1日も早い復興を願つております。

このような中、私達応援隊は7月29日被災地岩手県宮古市を訪問、「大杉神社祭典」(主催宮古漁業協同組合・大井誠治組合長)並びに「宮古夏祭り」(事務局宮古商工会議所)のイベントに参加、「青森ほたて貝焼き無料試食会」を左記の通り実施、宮古市民を激励してまいりました。



実施日 7月29日(日)
時間 午前10時～
会場 宮古市魚市場内
内容 ほたて貝焼き無料試食会
先着 千名様



看板とのぼり



「がんばろう宮古！」激励の挨拶 植村ほたて流振会長

応援隊参加団体名並びに参加者数

	団体名	氏名	参加
主 催	青森県ほたて流通振興協会	植村正治会長他	7
	青森県漁業協同組合連合会	小出政明専務他	3
	むつ湾漁業振興会	立石政男副会長他	4
後 援	(社)青森県漁港漁場協会	原口健二専務	1
	青森県漁業信用基金協会	清藤進参事	1
	合計		16

応援隊は5団体16名の役職員で構成、猛暑の中懸命にほたて貝焼きに努め、イベントにお集まりの山本市長や多数の宮古市民から「ほたてが美味しい」「応援ありがとうございます」「がんばります」「感謝します」等のお言葉をいただき、宮古市へ来てよかつたとの思いを強くしたイベントでした。ご協力いただきました宮古漁業協同組合・宮古市・宮古商工会議所には心よりお礼申し上げ、宮古市民の平穏な生活が一日も早く実現できる日を期待しております。

県内関係団体のご協力に対し感謝申し上げ報告いたします。

ありがとうございました。
(青森県ほたて流通振興協会)

平成24年度漁協運動功労者



J.F. 小 泊
代表理事組合長 佐 藤 博

〈功績内容〉

高校卒業後、7年間漁業に従事。その後30年余り漁協職員で培った知識を十分に活かし、平成13年小泊漁業協同組合代表理事組合長に就任。組合員の経済的・社会的地位を高めることと、加えて、漁協運営の基盤である財務の健全化及び安定化に向け、卓越した知識と強力な指導力を遺憾なく発揮することにより、「漁村・小泊」の更なる発展に尽力し、現在に至っている。一方、J.F.信漁連代表監事として、的確な発言と調整力には高い評価を得ており、また、県小型いか釣協議会では、理事・副会長として資源管理の必要性を粘り強く訴え、難問であった休漁日の設定及び漁獲制限の設定等に大きく寄与するなど、水産業発展のために取り組んでいる功績は誠に顕著である。

青森県漁連新人職員紹介



木 村 竜太郎
(販売課)

趣味……格闘技観戦

今年度から販売課で働くことになりました。最近は上司や先輩からの教示を頂きながら楽しく仕事をさせて頂いております。我々の住む青森県は第一次産業で成り立っている県であり、漁業を支えることは我々の住む所を支えることだと自負しております。県漁連という立場を生かし、自分の県や産業を支えられる人になれるように頑張ります。



對 馬 幸 信
(平内加工場)

趣味……映画鑑賞

県漁連に入会して5ヶ月が経ち業務内容を覚えてきましたが、まだまだ未熟なので先輩方の指導の下、一人前になれるように努力したいと思っていますのでよろしくお願ひ致します。

水産に関する主な動き (5月~8月)

5月	事 項	場 所
23日(水)	全国豊かな海づくり推進協会 通常総会	東
28日(月)	(社)青森県水産振興会 通常総会	京
28日(月)	青森県ほたて流通振興協会 通常総会	森
30日(水)	青森県漁船保険組合 通常総代会	市
31日(木)	(社)青森県漁港漁場協会 通常総会	市
31日(木)	青森県資源管理協議会 通常総会	市
6月	事 項	場 所
4日(月)	青森県東部海域漁業協議会 通常総会	青
5日(火)	青森県栽培漁業振興協会 社員総会	森
5日(火)	むつ湾漁業青色申告会連合会 通常総会	森
5日(火)	本会理事会	森
11日(月)	本会理事会	森
11日(月)	青森県漁場監視団連合会 通常総会	森
12日(火)	東北地方海難防止強調運動推進協議会	森
13日(水)	(社)青森県ほたて漁業振興基金 通常総会	森
15日(金)	青森県漁業環境保全振興協会 通常総会	森
19日(火)	(社)日本定置漁業協会 通常総会	京
20日(水)	本会通常総会・理事会・監事会	森
20日(水)	青森県漁業経営安定対策本部 通常総会	森
21日(木)	青森県JF共済推進本部 定例総会	森
21日(木)	青森県漁業信用基金協会 通常総会	森
22日(金)	青森県信用漁業協同組合連合会 通常総会	森
22日(金)	青森県漁業共済組合 通常総会	森
26日(火)	全国漁業協同組合連合会 通常総会	京
29日(金)	深浦地区漁協合併推進協議会	浦
7月	事 項	場 所
2日(月)	春季陸奥湾養殖ホタテ貝実態調査 結果報告会	青
3日(火)	本会理事会	森
3日(火)	青森県漁船保険組合 臨時総代会	森
5日(木)	マダラ出荷自粛規制に係る関係組合緊急組合長会議	森
6日(金)	海難防止強調運動推進会議	森
6日(金)	陸奥湾ほたてがい成貝づくり推進協議会	森
6日(金)	東日本产地魚市場協会 通常総会	城
12日(木)	本会役員推薦委員選出協議会	森
17日(火)	青森県魚市場協会 通常総会	森
20日(金)	深浦地区漁協合併推進協議会	浦
23日(月)	青森県さけます増殖流通振興協会 通常総会	森
24日(火)	ほたて供養祭	内
24日(火)	むつ湾漁業振興会 通常総会	森
25日(水)	青森県水産物放射能対策協議会 設立会議	森
31日(火)	関係府県大型クラゲ対策担当者会議	京
8月	事 項	場 所
3日(金)	本会臨時総会	青
7日(火)	全国漁連(漁協)・信漁連専務参事会議	東
10日(金)	青森県水産物放射能対策協議会	京
20日(月)	マダラ出荷自粛に伴う県知事への要請	森
31日(金)	漁船海難防止青森県大会	市